

愛媛県

う し ぶ ち

し し ま い

牛 湊 の 獅 子 舞

市指定無形民俗文化財

浮嶋神社秋祭り奉賛会

[出演者]

大西 恒光 (牛湊奉り甚句／唄)	八木 伸泰 (牛湊奉り甚句／囃子方)	葛原 敬吾 (獅子舞／太鼓・舞)	葛原 昭夫 (獅子舞／舞)
高須賀隆利 (牛湊奉り甚句／囃子方)	大西 良也 (牛湊奉り甚句／囃子方)	葛原 隆治 (獅子舞／太鼓・舞)	葛原 誠 (獅子舞／舞)
小山 澄男 (牛湊奉り甚句／囃子方)	柏原 雅樹 (獅子舞／太鼓)	江崎 寿紀 (獅子舞／舞)	
大西 賢 (牛湊奉り甚句／囃子方)	高須賀圭吾 (獅子舞／太鼓)	山内 謙孝 (獅子舞／舞)	

[行う時期・場所]

10月中旬
浮嶋神社 秋祭り
(愛媛県東温市牛湊)

『浮嶋神社秋祭り奉賛会』は、愛媛県東温市牛湊の縣社浮嶋神社の例大祭に五穀豊穡を祈願して獅子舞を奉納しています。

昭和30年代青年団の衰退と兼業農家の台頭により、伝統文化の継承が困難な状況を打開する為に、専業農家の有志が中心になって設立されました。浮嶋神社例大祭の神輿渡行・お練り・獅子舞全てを総括し、一期一会をモットーに今日までその年の45歳に当たる同級生が一丸となって行っています。現在約350名で子供・父親・祖父といった年代の間を途切れることなく、産土神の祭を通じて、3世代が集い同じ神輿を担ぐ事で村社会の不文律を理解し、伝統文化を守り継承し現在に至っています。

東温市の前身重信町誌によれば、井門村(現在松山市井門町)から牛湊へ、文化九年(1812)に若連中が伝習し、そして古老の口伝のように牛湊より周辺農村へ伝わって行き、「どこの獅子舞が古いとか根源であるとかは早計には断じがたいけれども、目下のところ牛湊が最も古いと言えそうである。」と記録されており、本年4月に東温市無形民俗文化財に指定を受けました。

演目には、三番叟・古三番叟・新神楽・古神楽・千鳥・とんとこ・中の切・

すまし・獅子おこし・おやす・にわか獅子など11点があり、三番叟・古三番叟・新神楽・古神楽・千鳥の5演目は前の切と言い、いわば前半の舞として舞われ、これに神楽太鼓という獅子が休む間奏の太鼓をはさんで後半はとんとこを舞います。いわば前半・後半の2部構成になっております。子供演じるキツネ・サルなどがでるおやすや獅子おこしなど比較的華やかな演目もあります。私たちの獅子は、前獅子を雄、後獅子を雌として一対とし江戸獅子に見られるような獅子頭のための舞と違い前後一体となった迫力のある乱獅子であり、文化九年より約二百年間、五穀豊穡を祈念し奉納を軸として時代に流される事無く今日に至っています。

これまで平成5年の伊勢神宮式年遷宮祭での奉納や平成14年モンゴル外交関係樹立30周年記念親善公演としてモンゴル国立オペラ劇場での演舞といった輝かしい実績があります。

本日は、数ある演目の中から、「古神楽」・「すまし」を演舞いたします。「すまし」は、前獅子が後獅子に抱えられた状態で舞う珍しい形態の演目で、力の必要な舞を演じます。

